第2次名古屋港管理組合 地震・津波災害対策アクションプラン 実施状況及び評価結果 (令和4年度)

令和6年1月

名古屋港管理組合

目 次

1	はじめ	に・	•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	
2	施策体	ぶ系・	•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	
3	評価指	 續.	•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	3	
4	評価指	 信標一	·覧	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	4	
5	個別ア	アクシ	/ ヨ	ンリ	頁目	(令	和力	元年	连度	\sim	令	和	5	年	度)			
(1 ア イ ウ	確実	: 守る 送地を 遅な避 閉扉の	守難	実	見の	た	め	のì	辟鄚	對	策	の{	• 確	• 立	•	•	•	•	6	
(2 ア イ ウ	緊急航路	后を守 息物資 路 路 り り り り り り り り り り り り り り り り り	輸売	送る向に	ナた	.連	携	•]	取組	1						· 備	•	•	1	4
(3 ア イ ウ	早期港灣	きを守 胃復旧 野貨物 別物流	活! 等	動る の i	曼水	•	流	出礼	波害	最	小	化			. —				1	8
(4 ア イ ウ	人材防災		湾系	小 用・	者。	. –			• • 訪	• 当等	• ドに	· 対	・す	· る	· 防	· i災	• 教	· 〔育·	2 · 意	2 識啓発
C	+ 1. U																		0	0

1 はじめに

本組合は、大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくりを実現するため、本組合防災計画に基づく具体的な個別の防災・減災対策の施策について計画的に遂行することを目的として、平成27年10月に地震・津波災害対策に係る名古屋港管理組合災害対策アクションプラン(5ヶ年計画)を策定した。

その後、南海トラフ地震について、国が「現時点においては、地震の発生時期や場所・規模を確度高く予測する科学的に確立された手法はない」(平成29年8月 南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会)と公表したことにより、いつ発生するか分からない大規模地震に適切に対応するためには、防災意識の向上を図ることが重要であることを改めて認識し、新たに「防災力を高める」を施策の柱に加え、より実効性のある計画として、令和元年度(2019年度)から5年間を対象とした第2次名古屋港管理組合地震・津波災害対策アクションプラン(以下「本アクションプラン」という。)を策定した。

本アクションプランは、その実効性を確保するため、指標等を用いて可能な限り定量化し、各施策の進行管理を行うとともに、「名古屋港管理組合中期経営計画2023*」と連動することにより、中期経営計画に掲げられている施策については、行政評価において進行管理を行う等、各施策の進行管理を効率的に進めるものとし、令和4年度の実施状況を取りまとめた。

※ 名古屋港管理組合中期経営計画2023

名古屋港管理組合では、概ね20年先を目標年次として平成19年に策定した長期構想「名古屋港の針路」を実現するため、具体的な施策や事業展開を体系化した「名古屋港管理組合政策体系2018」が平成30年度で終了したことに伴い、令和元年度新たな5ヶ年計画として「名古屋港管理組合中期経営計画2023」が策定された。

2 施策体系

(1) 施策の柱

大規模災害においては、まずは「命」を守ることであり、そして、その後の「生活」を守ることが重要である。さらに、継続した地域経済・社会の発展には「産業」を守ることが重要である。また、これらの内容を実施するためには、名古屋港に携わる一人ひとりの防災力を高める必要があることから、施策の柱として、「命を守る」「生活を守る」「産業を守る」「防災力を高める」の4点を位置づける。

1 命を守る

大規模災害による直接的な被害から、港湾労働者、一般来訪者、背後住 民等の生命を守るため、必要なハード対策・ソフト対策を確実に推進する。

2 生活を守る

生活の基盤となる港湾の輸送機能を維持するため、事前のハード対策・ ソフト対策を確実に推進するとともに、被災後の航路啓開、道路啓開等の 緊急物資輸送の実施に向け、防災関係機関と連携強化を推進する。

3 産業を守る

企業の経済活動が継続できるように、また、産業の迅速な復旧・復興を 図るため、関係機関や立地企業と連携し、港湾の被害を最小化し、名古屋 港の機能を維持するとともに、復旧・復興体制の構築などを推進する。

4 防災力を高める

命、生活及び産業を守るためには、名古屋港に携わる一人ひとりに対する意識啓発、災害対応に携わる人材に対する研修及び訓練並びに災害対応を効果的に実施するための情報、連携等の枠組及び制度の構築が必要であり、こうした防災力を高める取組を推進する。

(2) 施策項目及び個別アクション

施策の柱を具体化する12の施策項目を設定し、それぞれの施策を計画 的に推進するための33項目の個別アクションを抽出した。

施策の柱(4項目)

施策項目(12項目)

個別アクション(33項目)

命	ヶ	守	る
μIJ	<u>-</u>	v	v

確実な避難を実現し生命を守る

背後地を守る海岸保全施設等の強化

 \exists

確実な避難実現のための避難対策の確立

所在市村と連携した津波避難対策等の推進

防潮扉の迅速な閉鎖に向けた取組

防潮扉の閉鎖訓練の実施

防潮壁改良事業

など 13 項目

生活を守る

緊急物資輸送により被災直後の災害対応を支える

緊急物資輸送を支える港湾施設の強化・整備

大江ふ頭耐震強化岸壁改良事業

航路啓開に向けた連携・取組

木材の流出防止対策

緊急物資輸送に向けた陸・海の連携・取組

名古屋港港湾機能継続計画の推進

など 8 項目

産業を守る

早期復旧・復興を速やかに成し遂げ産業全体を守る

早期復旧活動を支える重要施設の機能強化・整備

| 飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業

港湾貨物等の浸水・流出被害最小化へ向けた取組

名古屋港管理組合所有建築物の耐震化

早期物流再開に向けた連携・取組

石油コンビナート等防災訓練への参加

など 10 項目

防災力を 高める

防災意識の向上や、防災用物資の充実を図り、防災力を高める

職員等に対する防災教育・意識啓発・人材育成

防災講演会による職員への防災教育の実施

防災用物資・設備の充実

災害救援物資の適正な保管

防災情報の充実

防災情報伝達体制の構築

など 13 項目

※ 個別アクション(33項目)の項目数の合計は、重複しているものがあるため、一致しない。

3 評価指標

実施状況について、進行管理型の場合は、令和4年度までの累計値が事業量の8割以上であれば「順調」、8割未満6割以上であれば「やや遅れ」、6割に満たなければ「遅れ」とし、単年度管理型の場合は、令和4年度の実績が1年分の事業量の10割以上であれば「目標値通り」、10割未満8割以上であれば「目標値をやや下回る」、8割に満たなければ「目標値を下回る」としている。

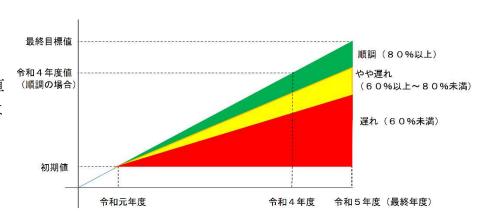
なお、各個別アクションの令和元年度から令和5年度までの指標名、目標 値、実績値及び評価結果は、「**4 評価指標一覧**」による。

「進行管理型」と「単年度管理型」の考え方について

○「進行管理型」

事業開始等からの累計値 (目標値・実績値)によって進行管理する指標

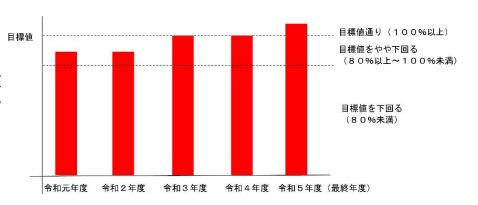
例:建設・整備事業の 進捗率など



○「単年度管理型」

単年度の目標値・実績値 によって目標管理する指 標

例:訓練回数など



4 評価指標一覧

【指標型】は、【進行管理型】と【単年度管理型】の2種類に分類 【進行管理型】:事業開始等からの累計値(目標値・実績値)によって進行管理する指標

【単年度管理型】: 単年度の目標値・実績値によって目標管理する指標

			I		
施策 の柱	施策項目	個別アクション ★は愛知県地域強靭化計画に位置付けられている項目 ☆は「名古屋港管理組合中期経営計画 2023」に掲げる事務事業の項目	指標名【指標型】	令和4年度(まで) の目標値	評価結果
		防潮壁改良事業 ★ ☆	整備延長(km) 【進行管理型】	目標値 3.84km(累計) 実績値 2.50km(累計)	遅れ
		防潮扉改良事業 ★ ☆	防潮扉の改良数 【進行管理型】	目標値 58箇所(累計) 実績値 58箇所(累計)	順調 【完了】
	背後地を守 る海岸保全	堀川口防潮水門の地震・津波対 策 ★ ☆	既設躯体の耐震補強工事完了 までの進捗状況 【進行管理型】(全4工程)	目標値 4工程(累計) 実績値 4工程(累計)	順調 【完了】
	施設等の強化	大江川地区地震・津波対策事業 ★ ☆	事業の進捗状況 【進行管理型】(全6工程)	目標値 5工程(累計) 実績値 5工程(累計)	順調
		堀川口のポンプ施設・防潮水門 及び港内の防潮扉等の管理・運 用 ☆	災害時の施設の故障発生件数 【単年度管理型】	目標値 0回 実績値 0回	目標値 通り
命を		中川口等におけるポンプ施設・ 通船門等の管理・運営 ☆	災害時の施設の故障発生件数 【単年度管理型】	目標値 0回 実績値 0回	目標値 通り
守る		避難に関する情報提供	防災情報サイトの改善点等に ついて、ヒアリング等を実施 する回数【単年度管理型】	目標値 3回 実績値 4回	目標値 通り
9	確実な避難	所在市村と連携した津波避難対 策等の推進	所在市村との会議の開催回数 【単年度管理型】	目標値 2回 実績値 3回	目標値 通り
	実現のため の避難対策 の確立	職員への各種防災訓練等の実施	各種防災訓練の実施回数 【単年度管理型】	目標値 5回 実績値 7回	目標値 通り
	-> -	防災無線通信訓練の実施	無線通信訓練の実施回数 【単年度管理型】	目標値 36回 実績値 34回(2回中止)	目標値 通り
		港湾利用者等を含めた防災訓練の実施	防災訓練の実施回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
	防潮扉の迅 速な閉鎖に	防潮扉の閉鎖訓練の実施	閉鎖を完了するまでの時間 【単年度管理型】	目標値 60分 実績値 50分	目標値 通り
	歴な閉鎖に向けた取組	沿岸防災情報管理システム通報 訓練の実施	通報訓練の通報到達率 【単年度管理型】	目標値 100% 実績値 100%	目標値 通り
	緊急物資輸 送を支える	大江ふ頭耐震強化岸壁改良事業 ★ ☆	事業進捗率(整備費換算) 【進行管理型】	目標値 100%(累計) 実績値 100%(累計)	順調 【完了】
	港湾施設の強化・整備	金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 ★ ☆	新規岸壁整備 (-12m) 等の事 業進捗 【進行管理型】(全5工程)	目標値 5工程(累計) 実績値 5工程(累計)	順調 【完了】
生	航路啓開に 向けた連携	防災用資機材等の確保	油吸着マット、油処理剤の在 庫の点検・確認回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
活力	• 取組	木材の流出防止対策	貯木場防災訓練の実施回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
を 守		名古屋港港湾機能継続計画(名 古屋港BCP)の推進 ★ ☆	協議会、ワークショップ等の 開催回数【単年度管理型】	目標値 4回 実績値 4回	目標値 通り
る	緊急物資輸 送に向けた	関係機関との訓練の実施	関係機関と連携した訓練に参加した回数 【単年度管理型】	目標値 5回 実績値 5回	目標値 通り
	送に向けた 陸・海の連 携・取組	緊急輸送道路の日常点検	緊急輸送道路の点検・確認回数 【単年度管理型】	目標値 50回 実績値 50回	目標値 通り
		応急危険度判定士の確保	応急危険度判定士の登録者数 【進行管理型】	目標値 50人(累計) 実績値 58人(累計)	順調

		mula		I	
施策の柱	施策項目	個別アクション ★は愛知県地域強靭化計画に位置付けられている項目 ☆は「名古屋港管理組合中期経営計画 2023」に掲げる事務事業の項目	指 標 名 【指標型】	令和4年度(まで) の目標値	評価結果
		飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業 ★ ☆	岸壁の増深整備 (-15m) 及び 耐震化の事業進捗 【進行管理型】(全6工程)	目標値 4工程(累計) 実績値 4工程(累計)	順調
	早期復旧活 動を支える 重要施設の	建築物耐震対策整備事業 ☆	建築物(上屋等)における地 震対策数(棟)【進行管理型】	目標値 6棟(累計) 実績値 7棟(累計)	順調
	機能強化・	大江ふ頭耐震強化岸壁改良事業 (再掲)★ ☆	事業進捗率(整備費換算) 【進行管理型】	目標値 100%(累計) 実績値 100%(累計)	順調 【完了】
産		金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 (再掲)★☆	新規岸壁整備 (-12m) 等の事業進捗 【進行管理型】(全5工程)	目標値 5工程(累計) 実績値 5工程(累計)	順調 【完了】
業を	港湾貨物等	石油コンビナート等防災訓練へ の参加	石油コンビナート等防災訓練 に参加した回数【単年度管理 型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
守る	の浸水・流 出被害最小 化へ向けた 取組	防災用資機材等の確保 (再掲)	油吸着マット、油処理剤の在 庫の点検・確認回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
	「	木材の流出防止対策 (再掲)	貯木場防災訓練の実施回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
		名古屋港港湾機能継続計画(名 古屋港BCP)の推進(再掲)★ ☆	協議会、ワークショップ等の 開催回数【単年度管理型】	目標値 4回 実績値 4回	目標値 通り
	早期物流再 開に向けた 連携・取組	緊急輸送道路の日常点検 (再掲)	緊急輸送道路の点検・確認回 数【単年度管理型】	目標値 50回 実績値 50回	目標値 通り
		応急危険度判定士の確保(再掲)	応急危険度判定士の登録者数 【進行管理型】	目標値 50人(累計) 実績値 58人(累計)	順調
		防災講演会による職員への防 災教育の実施	本組合防災講演会への職員の 参加者数【単年度管理型】	目標値 50人 実績値 58人	目標値 通り
	職員、港湾	地震体験車による港湾利用者・ 一般来訪者等への防災啓発活 動の実施	地震体験車の体験者数 【単年度管理型】	目標値 100人 実績値 101人	目標値 通り
	利用者、一 般来訪者等 に対する防 災教育・意	イベント等における港湾利用 者・一般来訪者等への防災啓発 活動の実施	防災イベント時における本組 合ブースへの来場者数 【単年度管理型】	目標値 150人 実績値 168人	目標値 通り
	識啓発・人 材育成	災害対応力の強化	訓練等の実施回数【単年度管 理型】	目標値 3回 実績値 3回	目標値 通り
防		職員への各種防災訓練等の実施(再掲)	各種防災訓練の実施回数 【単年度管理型】	目標値 5回 実績値 7回	目標値 通り
災		港湾利用者等を含めた防災訓練の実施(再掲)	防災訓練の実施回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
力を		災害救援物資の適正な保管	災害救援物資の点検・確認回 数【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
高		職員用非常食の確保	非常食の点検・確認回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
め	防災用物資・設備の充	画像や映像による被害状況把 握に向けたドローンの活用	ドローンの操作及び映像確認 訓練回数【単年度管理型】	目標値 6回 実績値 6回	目標値 通り
る	実	災害対応業務のデジタル化の推 進 ☆	ドローン、大型映像表示装置 の導入及び港内カメラの設置 【進行管理型】(全2工程)	目標値 2工程(累計) 実績値 2工程(累計)	順調 【完了】
		防災用資機材等の確保 (再掲)	油吸着マット、油処理剤の在 庫の点検・確認回数 【単年度管理型】	目標値 1回 実績値 1回	目標値 通り
	防災情報の	ツイッターによる防災情報伝 達体制の構築	本組合防災・災害情報ツイッ ターによる確実な情報発信 【単年度管理型】	目標値 100% 実績値 100%	目標値 通り
	充実	避難に関する情報提供(再掲)	防災情報サイトの改善点等に ついてヒアリング等を実施す る回数 【単年度管理型】	目標値 3回 実績値 4回	目標値 通り

5 個別アクション項目

(1) 施策の柱: 命を守る

大規模災害による直接的な被害から、港湾労働者、一般来訪者、背後住民等の生命を守るため、必要なハード対策・ソフト対策を確実に推進する。

ア 背後地を守る海岸保全施設等の強化

アクション 項目	防潮壁改良	急事業 ★	$\stackrel{\wedge}{\sim}$		担当部	署 建設部 事業推述	進課
概要							海岸保全基本計画に基 関模災害から防護する。
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度までの目標値
尹未司 四 							4.20 km(累計)
令和4年度 までの実施 状況等	川地区、時 防潮壁改良 頭地区、カ 和ふ頭地区 及び設計を として、船	関地区、築 昭和ふ行の頭と 大江湖見る。 と行いる。 と行いる。	区、潮見ふ ともに、大江川 頭地区の利 さらに、老 で、稲永ふ	頭地区の ニデンふ 地区、昭 川用者調整 おのに対策	指標名 目標値 実績値	3.	備延長(km) 84 km(累計) 50 km(累計)
	令和 4 年	を行った。 F度は費用。 ったため整った。	のかかる地		評価 結果		遅れ

アクション 項目	防潮扉改良	急事業 ★	☆		担当部	担当部署 建設部 事業推進課				
概要		扉の迅速な開閉が行えるよう、扉の軽量化(アルミ化)を進めるとともに、人や貨物の出入りが少なく老朽化した扉については廃止し、壁体化を進める。								
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度までの目標値			
1.7611	\longrightarrow						R 元年度完了			
					指標名	防	潮扉の改良数			
令和4年度 までの実施 状況等	令和元年	F 度完了			目標値 実績値		3箇所(累計) 3箇所(累計)			
					評価結果	 【令	順調和元年度完了】			

アクション 項目	堀川口防河	朝水門の地	震・津波対	策 ★ ☆	1 担当部	署 建設部 工事課					
概要		地震時における防護機能を確保するため、堀川口防潮水門の躯体の補強工事を行い、 背後地域を大規模災害から防護する。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度までの目標値				
予米川西			\longrightarrow				R3年度完了				
					指標名	既設躯体の)耐震補強工事完了まで L				
令和4年度 までの実施 状況等	令和3年	F 度完了			目標値 実績値		工程(累計) 工程(累計)				
					評価結果	【余	順調 和3年度完了】				

アクション 項目	大江川地區	区地震・津	波対策事業	₹ ★ ☆	担当普	『署	建設部事業推議	進課			
概要	大江川河口部の防潮壁新設にあわせ、背後の埋立てによる利用展開も考慮した案について検討を行い、安全性や経済性などを踏まえ、河口部に防潮壁を新設する。										
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R 6	6年度~	R5年度までの目標値			
							\longrightarrow	6 工程(累計)			
					指標名		事業の進捗状況				
令和4年度 までの実施 状況等	海上部締りい、完了し	刃施設の設	設整備につ 計(実施設 、陸上部防 った。	計)を行	目標値 実績値			5 工程(累計) 5 工程(累計)			
	2 1/2 C 112/	, = , ; ;	=0		評価 結果			順調			

アクション 項目		ポンプ施設 等の管理・	・防潮水門 運用 ☆	及び港内	担当部	担当部署 建設部 施設事務所					
概要	所を発見し	堀川口のポンプ施設・防潮水門及び港内の防潮扉等について保守点検を行い、不良箇所を発見した場合は緊急度に応じた補修を実施し、異常が確認された、又は老朽化した 設備については補修を行い、災害時に異常なく稼働するようにする。									
 事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R 6	年度~	R5年度の目標値			
予未可凹							\rightarrow	0 回			
					指標名	Ş	災害時の施設の故障発生件数				
令和4年度 実施状況等	外部委託	こて補修を	を計画的に 行い、災害 く稼働した	時の故障	目標値 実績値			0回 0回			
					評価結果			目標値通り			

アクション 項目	中川口等にの管理・資	こおけるポ 重営 ☆	ンプ施設・	通船門等	担当部	建設部 施設事	務所				
概要	発見した場	中川口ポンプ施設・通船門、松重ポンプ施設等について保守点検を行い、不良箇所を 発見した場合は緊急度に応じた補修を実施し、異常が確認された、又は老朽化した設備 こついては補修を行い、災害時に異常なく稼働するようにする。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値				
事 来时國						\longrightarrow	0 回				
					指標名	災害時の	施設の故障発生件数				
令和4年度 実施状況等	外部委託	ている設備 こて補修を ^を ぎ、異常な	行い、災害	時の故障	目標値 実績値		0回				
					評価結果		目標値通り				

イ 確実な避難実現のための避難対策の確立

アクション 項目	避難に関う	する情報提	供		担当部	·署 総務部 危機管:	理課					
概要	掲載等を行	港湾利用者に対して、ホームページ等に避難場所、浸水想定等の避難に関する情報の 掲載等を行い、避難に関する情報提供を行うとともに、関係機関に対しヒアリング等を うい、必要に応じてホームページ等の改善を図る。										
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値					
予未可凹						\longrightarrow	3 回					
			サイトを随 ームページ		指標名		イトの改善点等につい ング等を実施する回数					
令和4年度 実施状況等	また、会 防災体験な 経路調査及	ソアー、津 及び所在市	波避難訓練 波避難ビル 村防災連携	への誘導 会議にお	目標値 実績値		3回 4回					
	· -		にアンケー ついて情報		評価結果		目標値通り					

アクション 項目	所在市村る	と連携した	津波避難対	策等の推進	生 担当部	署 総務部 危機管						
概要	所在市村	所在市村防災連携会議を通じて、防災に係わる連携や情報共有を図っていく。										
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値					
予 术们固							2 回					
					指標名	所在市村	すとの会議の開催回数					
令和4年度 実施状況等	員会を2回	回、委員会	防災連携会 を1回開催 難対策を推	し、所在	目標値 実績値		2回 3回					
					評価結果		目標値通り					

アクション 項目	職員への名	各種防災訓	練等の実施	į	担当	担当部署 総務部 危機管理課					
概要	職員に対	職員に対し、各種訓練等を行うことにより、災害対応力の向上を図る。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R	6年度~	R5年度の目標値 5回			
								0 E			
					指標名		各種防	災訓練の実施回数			
令和4年度		対象に消防 4回、防災			目標値			5 回			
実施状況等		事対応力の			実績値		7 回				
					評価結果			目標値通り			

アクション 項目	防災無線道	通信訓練の	実施			担当部署 総務部 危機管理課			理課		
概要		非常時の通信手段として整備している無線の通信訓練を定期的に行い、操作従事者 災害対応力の向上を図る。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R 5	5年度	R 6 年月	度~	R5年度の目標値		
予 未时固								→	36 回		
		んほんぶ防 の通信試験		•	指	標名	1	無線通信訓練の実施回数			
令和4年度	実施し、名	名古屋市地:	域防災無線	の通信訓	目	標値		3	6回		
実施状況等	' '	ては、5月 <i>1</i> 日は名古屋F			美	績値		34回 (2回中止)			
	· -	たため、合		•	· ·	評価 結果			目標値通り		

アクション 項目	港湾利用和	省等を含め	た防災訓練	更の実施	担当部	海 総務部 危機管					
概要		港湾利用者等を含めた防災訓練を実施し、港湾利用者等に対する防災意識の向上を図 る訓練を実施する。									
事業計画	R 元年度	元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度 R6年度~ R5年度の目標値									
						\longrightarrow	1 回				
					指標名	防災	炎訓練の実施回数				
令和4年度 実施状況等		ラフ地震・ 津波避難訓 た。			目標値 実績値	1回 1回					
					評価結果		目標値通り				

ウ 防潮扉の迅速な閉鎖に向けた取組

〈アクション項目〉

アクション 項目	防潮扉の関	閉鎖訓練の	実施		担当部	署 総務部 危機管	理課				
概要		防潮扉の確実な閉鎖体制を維持するとともに、目標時間内での閉鎖に向けて習熟度を 高めるよう、防潮扉の閉鎖訓練を実施する。									
事業計画	R 元年度	元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度 R6年度~ R5年度の目標値									
事未可凹						\longrightarrow	60分				
					指標名	閉鎖を	完了するまでの時間				
令和4年度 実施状況等		/ふ頭No.E その他の した。			目標値実績値	60分 50分					
					評価結果		目標値通り				

アクション 項目	沿岸防災性	青報管理シ	ステム通報	設訓練の実施	担当部	署 総務部 危機管	理課				
概要		防潮扉開閉操作従事者に対して、確実な開閉通報を行うため、沿岸防災情報管理システムの通報訓練を実施する。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値				
7 / / / / /						\longrightarrow	100%				
					指標名	通報	訓練の通報到達率				
令和4年度 実施状況等		災情報管理 回、年間で	100% 100%								
					評価結果		目標値通り				

★は愛知県地域強靭化計画に位置付けられている項目 ☆は「名古屋港管理組合中期経営計画 2 0 2 3」に掲げ る事務事業の項目

(2) 施策の柱:生活を守る

生活の基盤となる港湾の輸送機能を維持するため、事前のハード対策・ソフト対策を確実に推進するとともに、被災後の航路啓開、道路啓開等の緊急物資輸送の実施に向けた連携強化を推進する。

ア 緊急物資輸送を支える港湾施設の強化・整備

アクション 項目	大江ふ頭両	耐震強化岸	壁改良事業	₹ ★ ☆	担当部	署 建設部 事業推				
概要	震災時の緊急物資輸送や震災後の復旧期間における貨物輸送を確保できるよう、耐震 強化岸壁の老朽化対策を行い、施設の長寿命化、維持管理費の縮減を図る。									
事業計画	R 元年度	R 2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度までの目標値 R2年度完了			
					指標名		事業進捗率 (整備費換算)			
令和4年度 までの実施 状況等	令和2年	F 度完了			目標値 実績値		100%(累計) 100%(累計)			
					評価結果		順調			

アクション 項目	金城ふ頭は	他区ふ頭再	編改良事業	₹ ★ ☆	4	担当部	建設部 事業推進	進課			
概要		震災時の緊急物資輸送や震災後の復旧期間における貨物輸送を確保できるよう、金城 ふ頭 1・2 突間埋め立て地の前面に耐震強化岸壁を整備する。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度 →	R 5	年度	R6年度~	R5年度までの目標値 R4年度完了			
					指	標名	新規岸壁整	備 (−12m) 等の事業進			
令和4年度 までの実施 状況等	いて国と	∓度の直轄 協議を行い 壁の整備を 既成した。	、国が水深	₹12mØ		標値 績値		工程(累計) 工程(累計)			
	1-/1	9u/94 0 1 C 0				平価 吉果	[令	順調 和4年度完了】			

イ 航路啓開に向けた連携・取組

アクション 項目	防災用資格	幾材等の確	保		担当部	担当部署 総務部 危機管理課		理課			
概要		防災用資機材の在庫及び保管場所の適正化を図るとともに、資機材の点検を行い、 良な物は更新する。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R 6	年度~	R5年度の目標値			
7 / / / /							\longrightarrow	1 回			
					指標名		油吸着マット、油処理剤の在庫の 点検・確認回数				
令和4年度 実施状況等	されている	る防災用資 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	頭及び作倉 機材(オイ 油処理剤)	ルフェン	目標値 実績値		1回				
)				評価結果			目標値通り			

アクション 項目	木材の流は	出防止対策			担当部	署 港営部 港湾管	理事務所				
概要		「南海トラフ地震等に係る地震防災対策計画」に基づく現場での木材固縛、網場(バ) 閉鎖訓練 [※] 等を実施し、効率的な木材の流出防止対策と避難時間を確保する。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値				
						\longrightarrow	1 回				
	 	の名古屋港	木材会館で	が地震・津	指標名	貯木場	防災訓練の実施回数				
令和4年度 実施状況等	波に対する たが、コロ あったたる	る防災訓練 コナ禍によ か、令和 5	を実施する る緊急事態 年3月に規	予定でし 宣言下で 関模を縮小	目標値 実績値		1回				
	して情報化	云達訓練の	みを行った	-0	評価結果		目標値通り				

[※] 木の角材を組んで貯木場の開口部を閉鎖する訓練

ウ 緊急物資輸送に向けた陸・海の連携・取組

アクション 項目	名古屋港湾 の推進 オ		続計画(名	古屋港BCP)	担当部:	署 総務部 危機管	理課			
概要		名古屋港BCP協議会を開催するとともに、ワークショップなどを通じて名古屋港BCPの実効性を高めるための検討や訓練を実施する。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R 5	年度	R6年度~	R5年度の目標値			
							\longrightarrow	4 回			
					指	標名	協議会、ワ回数	ークショップ等の開催			
令和4年度 実施状況等		を2回、ワ を2回開催		プ(訓練		標値 績値		4回 4回			
						萨価 吉果		目標値通り			

アクション 項目	関係機関る	との訓練の	実施		担当部	3署 総務部 危機管	理課				
概要	愛知県 ² る。	愛知県本部運用訓練、港区総合防災訓練等に参加し、協力体制や防災体制の強化を図る。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値				
							5 回				
	 	 巻排出油防	除協議会情	報伝達訓	指標名	関係機関と た回数	連携した訓練に参加し				
令和4年度 実施状況等	策本部運営	総合防災訓 営訓練、飛 愛知県石	島ふ頭東側	JC T津波	目標値 実績値		5回 5回				
	災訓練に	参加した。			評価結果		目標値通り				

アクション 項目	緊急輸送道	道路の日常	点検		担当部	担当部署 港営部 港湾管理事務所					
概要		緊急輸送道路を巡視することにより損傷した箇所があれば速やかに応急処置を行 緊急輸送道路を良好に保つ。									
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値				
尹未川岡						\longrightarrow	50 回				
					指標名	緊急輸送道路の巡視・確認回数					
令和4年度 実施状況等	50 回を達	-	施し目標値 傷個所を発 った。		目標値 実績値	50回 50回					
					評価結果		目標値通り				

アクション 項目	応急危険原	度判定士の	確保		担当部	担当部署 建設部 施設事務所		
概要							こ対して、引き続き安全 E士を確保する。	
事業計画	R元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R					R6年度~	R5年度までの目標値 50人(累計)	
	既存判院	官士の登録	更新期限の)点検を行	指標名	応急危険	度判定士の登録者数	
令和4年度 までの実施 状況等	までの実施しては、応急危険度判定士講習会への参					50 人(累計) 58 人(累計)		
							順調	

★は愛知県地域強靭化計画に位置付けられている項目 ☆は「名古屋港管理組合中期経営計画2023」に掲げ る事務事業の項目

(3) 施策の柱:産業を守る

企業の経済活動が継続できるように、また、産業の迅速な復旧・復興を図るため、関係機関や立地 企業と連携し、港湾の被害を最小化し、名古屋港の機能を維持するとともに、復旧・復興体制の構築 などを推進する。

ア 早期復旧活動を支える重要施設の機能強化・整備

アクション 項目	飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業 ★ ☆				担当部署 建設部 事業推進課				
概要	震災時においても海上コンテナ輸送機能を確保できるよう、NCBコンテナターミュルR1・R2岸壁の増深に合わせ、耐震化していく。								
事業計画	R元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度						R6年度~	R5年度までの目標値	
						\longrightarrow		6 工程(累計)	
					抖	旨標名	岸壁の増深の事業進捗	整備(-15m)及び耐震化	
令和4年度	' '	F度の直轄 ト協議を行			E	標値	4	工程(累計)	
までの実施 状況等	までの実施 いて国等と協議を行い、国が R1 岸壁の 改良工事を実施し、令和 4 年 10 月に R1 岩壁を供用関始した				争		4工程(累計)		
改良工事を実施し、令和4年10月にR1						評価 結果		順調	

アクション 項目	建築物耐震対策整備事業 ☆					建設部 施設工事担当		
概要	本組合が所管している建築物のうち、耐震性実施する。						とする建築	E物について耐震工事を
事業計画	R元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R					R	6 年度~ →	R5年度までの目標値 7棟(累計)
	' ' '				指標名		葉物(上 数(棟)	:屋等)における地震対
令和4年度 までの実施 状況等	までの実施 上屋、令和2年度に稲永ふ頭南2号上 屋、令和3年度に稲永ふ頭南3号上屋及				目標値 実績値			6 棟(累計) 7 棟(累計)
	までの実施 上屋、令和2年度に稲永ふ頭南2号上 屋、令和3年度に稲永ふ頭南3号上屋及							順調

〈アクション項目 (再掲)〉

アクション 項目	大江ふ頭耐震強化岸壁改良事業 ★ ☆ 「緊急物資輸送を支える港湾施設の強化・整備」の再掲	担当部署	建設部事業推進課
-------------	--	------	----------

アクション 項目	金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 ★ ☆ 「緊急物資輸送を支える港湾施設の強化・整備」の再掲	担当部署	建設部 事業推進課
-------------	--	------	--------------

イ 港湾貨物等の浸水・流出被害最小化へ向けた取組

〈アクション項目〉

アクション 項目	石油コンビナート等防災訓練への参加					担当部署 総務部 危機管理課			里課
概要		石油コンビナート等防災訓練に参加し、関係機関と連携・協力して石油コンビナー 等特別防災区域の防災体制の強化に努める。							
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R 5	5年度	R6年月	芝~	R5年度の目標値
学未可凹								>	1 回
					指	標名	石油コ加した		ナート等防災訓練に参
令和4年度 実施状況等	練参加 11	愛知県石油コンビナート防災訓練(訓練参加11機関、訓練参加者76名(内本組合6名))に参加した。					1回 1回		
			-			評価 結果			目標値通り

(アクション項目 (重掲))

() / / / 3 / 3	頃日(円 掲) <i>)</i>		
アクション	防災用資機材等の確保	担当部署	総務部
項目	「航路啓開に向けた連携・取組」の再掲		危機管理課
_			
アクション	木材の流出防止対策	担当部署	港営部
項目	「航路啓開に向けた連携・取組」の再掲		港湾管理事務所

ウ 早期物流再開に向けた連携・取組

〈アクション項目(再掲)〉

アクション 項目 名古屋港港湾機能継続計画(名古屋港BCP) の推進 ★ ☆ 「緊急物資輸送に向けた陸・海の連携・取組」の再掲	担当部署	総務部 危機管理課
--	------	--------------

アクション 緊急輸送道路の日常点検 項目 「緊急物資輸送に向けた陸・海の連携・取組」の再掲	担当部署	港営部 港湾管理事務所
--	------	----------------

アクション 応急危険度判定士の確保 項目 「緊急物資輸送に向けた陸・海の連携・取組」の再掲	担当部署	建設部 施設事務所
--	------	--------------

★は愛知県地域強靭化計画に位置付けられている項目 ☆は「名古屋港管理組合中期経営計画 2 0 2 3」に掲げ る事務事業の項目

(4) 施策の柱:防災力を高める

命、生活及び産業を守るためには、名古屋港に携わる一人ひとりに対する意識啓発、災害対応に 携わる人材に対する研修及び訓練並びに災害対応を効果的に実施するための情報、連携等の枠組及 び制度の構築が必要であり、こうした防災力を高める取組を推進する。

ア 職員、港湾利用者、一般来訪者等に対する防災教育・意識啓発・人材育成

アクション 項目	防災講演会による職員への防災教育の実 施					担当部	署 総務部 危機管理	里課	
概要	全ての職員がより高い意識を持って防災活動に従事できるようにするため、防災 会を開催し、防災教育を実施する。								
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R	5年度	R6年度~	R5年度の目標値	
尹未司 四							\longrightarrow	50 人	
	ク」を利用	用し、港防		職員を講	打	旨標名	本組合防災者数	講演会への職員の参加	
令和4年度 実施状況等	本庁舎周辺の災害の危険性や防災の心構実施状況等 え、備蓄の内容、被災時の行動など、南					目標値 実績値	50人 58人		
			こった際の て参加者 5			<mark>評価</mark> 結果		目標値通り	

アクション 項目	地震体験車による港湾利用者・一般来訪 者等への防災啓発活動の実施 担当					当部署	器 総務部 危機管理	里課
概要	地震発生時に取るべき行動等の防災知識を身につけるため、地震体験車を活用して、 参加者に対し防災の意識啓発を行う。							
事業計画	R元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度						R6年度~	R5年度の目標値
							\longrightarrow	100人
					指標	冥名	地震体	本験車の体験者数
令和4年度 実施状況等	実施状況等 3日間実施し、親子を中心に101名が体				目標実績		100 人 101 人	
実施状況等 3日間実施し、親子を中心に101名が体験した。					評価結果			目標値通り

アクション 項目		等における の防災啓発			担当部	浴署 総務部 危機管	理課		
概要	他の機関と連携を図り、イベント等で防災啓発ブースを出展することなどにより、来 場者に対して防災の意識啓発を行う。								
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値 150人		
	者 101 名に	/ふ頭3号 こ地震体験 動を行った	車を活用し		指標名	防災イベン ブースへの	ノト時における本組合)来場者数		
令和4年度 実施状況等	名古屋市 住民の方 てPRした	市港区防災 50 名に名さ た。	訓練に参加 「屋港の防災	災につい	目標値 実績値	150 人 168 人			
	住民の方 50 名に名古屋港の防災につい						目標値通り		

アクション 項目	災害対応力の強化					部署	総務部 危機管		
概要		発災後の初動対応や航路啓開・道路啓開、応急復旧等を想定した訓練等を行うことにより組織等の災害対応力の強化を図る。							
事業計画	R元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度						6年度~	R5年度の目標値 3回	
	 	まから 70 ゲ	♪で本部昌≃	会議が開	指標名	7	訓練等の実施回数		
令和4年度 実施状況等	催できるた 練、災害対	地震発生から70分で本部員会議が開催できるか検証する災害対応力強化訓練、災害対策本部員を対象とした本部運用訓練、大規模地震発生を想定した土の					3回 3回		
	う積訓練等	-o	評価結果			目標値通り			

〈アクション項	〈アクション項目(再掲)〉									
アクション	職員への各種防災訓練等の実施	担当部署	総務部							
項目	「確実な避難実現のための避難対策の確立」の再掲		危機管理課							
アクション	港湾利用者等を含めた防災訓練の実施	担当部署	総務部							
項目	「確実な避難実現のための避難対策の確立」の再掲		危機管理課							

イ 防災用物資・設備の充実

アクション 項目	災害救援物資の適正な保管					部署	総務部 危機管		
概要		地域住民の避難に備え、名古屋市の要請により備蓄している災害救援物資を、速やかに引き渡せるよう保管体制を整える。							
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年月	E R	6年度~	7 2 2 3 3 3 3 3	
							\longrightarrow	1回	
					指標名	i Ø	災害救援物資の点検・確認回数		
令和4年度 実施状況等						<u>[</u>	1回 1回		
								目標値通り	

アクション 項目	職員用非常	常食の確保			担当部	当部署 総務部 危機管理課			
概要	職員用の を整える。	職員用の非常食の確保を適正に行い、職員が発災時に継続して防災活動を行える体制 を整える。							
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値		
- 予 不 们 四						\longrightarrow	1 回		
					指標名	非常負	非常食の点検・確認回数		
令和4年度 実施状況等		の点検・確 分の入替え	•	期限が迫	目標値 実績値	1回 1回			
実施状況等 る 153 食分の入替えを行った。					評価 結果		目標値通り		

アクション 項目	画像や映像ドローンの	に向けた		担当部		総務部	理課			
概要	発災時に	発災時にいち早く被害状況を画像や映像で把握できるようドローンの活用を図る。								
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R 5	5年度	R 6 名		R5年度の目標値	
- 7 不								\rightarrow	6 回	
					指	標名		ドローンの操作及び映像確認訓練 回数		
令和4年度 実施状況等	危機管理課と他部に所属する操作講習 を受けた職員が、ドローンの操作及び映 像確認訓練を6回行った。					標値	6回 6回			
						評価 結果			目標値通り	

アクション 項目	災害対応訓	業務のデジ	タル化の推	進 ☆	担当部	署 総務部 危機管	理課		
概要		災害対応に必要な情報項目等の標準化やシステムを活用したデータの収集・分析・加工・共有などを図る。							
事業計画	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度までの目標値 2工程		
	大型映作	象表示装置	、高性能ド	ジローン及	指標名	•	大型映像表示装置の導 Nカメラの設置		
令和4年度 までの実施 状況等	おける被犯	災状況の映	し、災害対 像情報を迂 技術を活用	速に把握	目標値 実績値		工程(累計) 工程(累計)		
	的・効率的	的に行える	ようにした	-0	評価結果		順調		

〈アクション項目 (再掲)〉

アクション 防災用資機材等の確保 項目 「航路啓開に向けた連携・取組」の再掲	担当部署	総務部 危機管理課
---	------	--------------

ウ 防災情報の充実

〈アクション項目〉

アクション 項目	ツイッタ - 築	ーによる防	災情報伝達	体制の構	担当部	担当部署 総務部 危機管理課			
概要		災害発生時において、名古屋港管理組合 防災・災害情報ツイッターによる確実な情報発信を行う。							
事業計画	R 元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度~	R5年度の目標値		
2 2/2/17 7						>	100%		
					指標名		本組合防災・災害情報ツイッター による確実な情報発信		
令和4年度 実施状況等	組合防災	• 災害情報	発生時にお ツイッター 情報発信を	により防	目標値 実績値	100% 100%			
実施状況等 潮水門の開閉状況の情報発信を行った。					評価結果		目標値通り		

〈アクション項目 (再掲)〉

アクション	避難に関する情報提供	担当部署	総務部
項目	「確実な避難実現のための避難対策の確立」の再掲		危機管理課

☆は「名古屋港管理組合中期経営計画 2 0 2 3」に掲げる事務事業の項目

6 まとめ

		,	個別アクション	,	
施策の柱	施策項目	順調 又は 目標値通り	やや遅れ 又は 目標値を やや下回る	遅れ 又は 目標値を 下回る	合 計
	背後地を守る海岸保全施設 等の強化	5		1	6
命を	確実な避難実現のための 避難対策の確立	5			5
命を守る	防潮扉の確実な閉鎖に向け た取組	2			2
	小計	1 2	0	1	1 3
	緊急物資輸送を支える港湾 施設の強化・整備	2			2
生活な	航路啓開に向けた連携・取 組	2			2
生活を守る	緊急物資輸送に向けた陸・ 海の連携・取組	4			4
	小 計	8	0	0	8
	早期復旧活動を支える重要 施設の機能強化・整備	4 (2)			4 (2)
産業を守る	港湾貨物等の浸水・流出 被害最小化へ向けた連携・ 取組	3 (2)			3 (2)
守る	早期物流再開に向けた連 携・取組	3 (3)			3 (3)
	小 計	1 0 (7)	0	0	1 0 (7)
防災	職員、港湾利用者、一般来 訪者等に対する防災教育・ 意識啓発・人材育成	6 (2)			6 (2)
力を高	防災用物資・設備の充実	5 (1)			5 (1)
向める	防災情報の充実	2 (1)			2 (1)
	小 計	1 3 (4)	0	0	1 3 (4)
	合 計 () は再掲	3 2 (再掲を除く)	0	1	33 (再掲を除く)